遊びながら学べ、学びながら遊べ

発行：戸沢村教育委員会　令和２年１０月発行　第１号

三つ子の魂百まで

幼児期に体験させてもらいたいこと

子どもの時代に体験して学んだことが、その後の人生に大きく関わっていきます。

中でも幼児期（小学校に入るまで）の体験を通して身につけた力が小学校に入学してから「学力」となっていきます。

「非認知能力」（※目に見えない力ではあるが、挑戦する心や最後までやり遂げる気持ちなど）の育成が大切と言われています。

次のような取組を行ってみませんか?！

①乳幼児期からの親子での絵本の読み聞かせ

文字や数字への関心、おはなしから想像力が育つ、絵に関心を持つなど効果があります。親子で読むことが子どもの豊かな感性や想像力を育てます。

②落書き、お絵かき、塗り絵

お絵かきは子どもの想像力と表現力を育てます。塗り絵を上手になるにはクレヨン、鉛筆の正確な持ち方が大切になります。

③自然体験や体を使った遊び

自分の手足を動かして歩くこと、思いっきり遊ぶことで丈夫な体とたくましい心が育ちます。

④親子・家族のコミュニケーション

子どもとの会話が子育てでは重要です。ほめるところはしっかりとほめ、間違いはしっかりと直すといったことで子どもに自信がつきます。

⑤子ども同士の遊び

遊びの中でルールを大切にすることや、人との付き合い方を学んでいきます。

⑥ゲームをするならカードゲームやボードゲーム

遊びの中で対話、ルール、学びが多くあります。

まずは、家族・親子で今日から取り組んでみてはいかがでしょうか。

ちょっと将来を見据えましょう

子どもは大事な宝物です。そんな「おらいのめご」も大きくなれば、「立派な社会人」になってもらいたいと親であれば考えます。

普通に、ご飯を食べて、保育所に通い、学校には入っていずれ、社会に出れば「立派な社会人」になるはずかもしれませんが、予測不能な現代社会において必ずしも誰もが順風満帆にそのように行くとは限りません。

「社会に対応できるように育てる」という視点を持っていただくだけでも、子育てが充実してくるのではないかと思います。「我が家のルールから常識へ」、「赤ちゃん言葉から、しっかりとした言葉遣いへ」、「躾からマナー、ルールへ」といった具合に子育て、子どもの活動を家庭から地域社会、社会全体…の様に段階を踏んで関わらせる親の視点が大切になります。

まずは、家族でのあいさつ、近所の人へのあいさつから始めてみましょう。

もちろん、親子一緒に!!

特別支援教育巡回相談について

戸沢村教育委員会では特別支援教育の視点から個に応じた教育の充実を推進しています。

年に２～３回、山形大学　三浦光哉教授から子ども一人一人の様子を見て判断してもらっています。こだわりが強かったり、中々集中できなかったり、発音が苦手だったりといったこと等を１歳児から中学生まで継続して指導いただいています。早めの対応をすることが学校に入ってから子ども自身が困らなくすることも目的の一つです。

教育委員会だけでなく村の保健師さん、保育所とも連携して行っています。

もし、お子さんの様子で気になることがありましたら、保健師、保育所、教育委員会までお問合せください。